

## 実践研究校の紹介 Part5

今回は、萩市立佐々並小学校及び長門市立向陽小学校の取組の様子を紹介します。

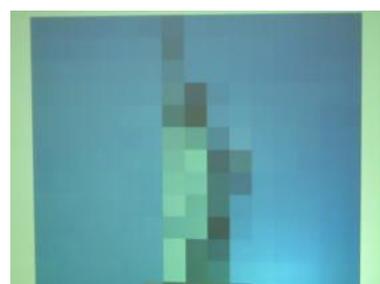
### 【萩市立佐々並小学校の授業風景等】



5・6年の複式学級で、教務主任がT1となり担任の先生とのチームティーチングで授業が進められました。教務主任は積極的に英語で子どもたちに話しかけ、子どもたちも元気よく英語で応えていました。英語ノート2 Lesson6 「行ってみたい国を紹介しよう」の2時間目の学習でしたが、オープンハウスを使用した国旗当てクイズの他、独自に作成したスライドに漢字や料理の写真などを組み合わせて表示するなど、子どもたちの興味を引き付け、集中して取り組めるような工夫がなされていました。また、持参した外国の小物を提示しての国名当てクイズは、校長先生を始め全ての先生方も加わり、活発な受け応えが行われ、小規模校ならではの温かい雰囲気を感じました。

今年度は、子どもたちが外国語活動の時間に、楽しみながら学習できるように、教材・教具及び環境整備に力を入れているとのことでした。

### 【長門市立向陽小学校の授業風景等】



6年生を対象に、英語ノート2 Lesson6 「行ってみたい国を紹介しよう」の単元の授業を担当単独で進められました。総合的な学習の時間で世界遺産について学んでおり、それに関連付けるように、その国の代表的な文化遺産をスライドにして子どもたちに示し、どこの国のものなのかを答えさせていました。子どもたちの興味関心を引き付けるために、スライドにはモザイク(写真は自由の女神)やぼかしなどのテレビのクイズ番組で見るような工夫がされており、子どもたちは集中しながら、楽しそうに取り組んでいました。また、行きたい国について全員が一人ひとり、堂々と理由を付けて発表していました。

高学年だけでなく、低・中学年でも教育課程外の時間を使って年間10時間程度の外国語活動が実施されています。また、外国語活動の全体計画が作成されています。

## 実践研究校の概括

これまで、文部科学省の「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業」実践研究校の様子を各号2校ずつ紹介してきました。それぞれの学校で、様々な工夫をしながら外国語活動の授業に取り組んでおられる様子の一端や、教材の開発・整備・保管等の様子など、各学校での今後の取組の参考にさせていただきたいと思えます。

## 実践研究校教員用アンケートから

文部科学省が1月下旬、これまで紹介した実践研究校の教員(代表者)を対象にアンケート調査を実施しました。

- 1 外国語活動を行うことで、貴校の児童に変化はありましたか。

① とてもあった	② まああった	③ あまりなかった	④ まったくなかった
6校	4校	0校	0校

- 2 1で、①又は②に○をつけた方で、どのような変化があったか具体的にご記入ください。(※記述された内容を抜粋)

- 表情が豊かになり明るくなった。
- 児童同士のかかわり合いが深まった。
- コミュニケーションの大切さに気づき、いろいろな人とコミュニケーションをとろうとする姿が見られるようになった。
- 自然に自分の気持ちや様子を表現できるようになった。
- 他者への思いやりの態度が身に付いてきた。
- 言語や異文化への興味・関心が高まった。

- 3 外国語活動を行うことで、貴校の教員に変化はありましたか。

① とてもあった	② まああった	③ あまりなかった	④ まったくなかった
7校	3校	0校	0校

- 4 3で、①又は②に○をつけた方で、どのような変化があったか具体的にご記入ください。(※記述された内容を抜粋)

- 研究協議での発言が増え、活発になった。
- 児童の興味関心を意識した活動の工夫をするようになった。
- 児童の良さを見取ろうとする態度が身に付いた。
- 個人の資質の向上を図ろうと、積極的に個人研修や校内研修を進める意識が高まり、実践できた。
- 教職員の意識が高まり、外国語活動に対する認識が深まった。また、共同して取り組む一体感が生まれた。
- 授業プランの作成、授業をとおして外国語活動に対する不安感が薄らぎ、苦手意識が少なくなった。前向きな気持ちがもてるようになった。

1年間の取組でしたが、子どもたちや先生方に大きな変化をもたらしていることがうかがえます。来年度は、移行措置期間最後の1年になります。年間15時間程度の校内研修をお願いしていますが、全校体制で計画的に研修を進めていただきますよう、お願いいたします。